

普及情報

野生動物による農業被害の軽減に向けて

はじめに

篠山市ではシカ、イノシシ、アライグマ、サル等の野生動物による農業被害が問題となっている。2006年度に市が約100農会を対象に実施した被害調査では、被害程度（何らかの被害があった集落の割合）はシカ91%、イノシシ84%、アライグマ83%、サル76%に及んだ。

普及活動の内容

農業改良普及センターでは2006年度からサル被害に強い作物の選定と実証を試みた（地域戦略推進費の猿害対応作物導入促進事業）。並行して、各機関が野生動物の生態把握調査や防護柵・ノリ網の設置等被害軽減技術の開発等に取り組んできたが、相互連携によるより効率的な活動を目指して、プロジェクトチーム（市、農林振興事務所、森林動物研究センター、普及センター）を結成した。

プロジェクトチームは、特にサル被害が顕著であった19集落を対象に巡回調査を実施し、被害の実態を把握した（写真）。その結果、集落によりサルの人慣れの度合いが異なり、追い払い等の対策を徹底すれば被害が軽減しうる有望な集落が幾つかあることが判明した。3集落で「とうがらし」栽培の実証ほを設置するとともに、花火等を利用した追い払い研修、サル対策として開発された弾性素材を利用した防護ネット、サル用電気柵の設置等、特にサル被害対策を中心に被害の軽減に取り組んできた。

2008年3月に「サル（野生動物）害対策合同研修会」を被害の多い集落に呼びかけて開催し、42集落からの参加があった。参加者の80%が「今までに増して獣害対策に取り組むようになった」と回答し、市内全域で関心が高まってきた。

2008年2月の鳥獣被害防止特別措置法の施行に伴

い、その推進体制として同年4月には篠山市で有害鳥獣対策推進協議会が設立された。プロジェクトチームに農協、土地改良事務所を加え、「鳥獣害対策支援チーム」を設置し、同協議会内の活動体制を強化した。

活動成果と波及

現在、サルに加えアライグマ等を対象とした野生動物の捕獲に必要な免許の取得を推進している。これまでに約580人が免許を取得し、地域をあげての野生動物被害の軽減対策に取り組む体制づくりが進んでいる。

特に、早くから取り組んだサル対策では、2008年度に奥畑集落で集落営農活動の一環として「サル追い隊」が結成され、対策の難しいサル被害に対して、効果を上げており、モデル的な取り組みとなっている。

今後も支援チームが一丸となり、野生動物被害の軽減に向けて総合的に取り組み、モデル集落を育成し、その成果を地域内に波及させていくこととしている。



プロジェクトチームで巡回調査を実施

来田 康男（丹波農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0795 - 73 - 3806）